

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：47701
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2017～2019
 課題番号：17K02485
 研究課題名(和文)山村暮鳥「説教メモ」の総合的研究 明治大正における詩的言語形成の底流の解明
 研究課題名(英文)Comprehensive research on Yamamura Bocho "Notes for preaching"
 研究代表者
 竹本 寛秋 (Takemoto, Hiroaki)
 鹿児島県立短期大学・文学科・准教授
 研究者番号：20552144
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：「説教メモ」について、ごく一部の資料を除き、翻刻作業が完了した。本研究を通して、「説教メモ」の使用用紙の検討から、その種類と使い方、書記の方法を明らかにして、「説教メモ」の構成の全体像が明らかになった。また、山村暮鳥の詩について、句読法に着目して、表現意識を明らかにする作業も行われた。さらに、小説の方法意識の解明を行った。以上、「説教メモ」の全体像の解明、および、山村暮鳥の詩、小説について、新たな視点からの解明が行われた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「説教メモ」は、日本聖公会の伝道師であった山村暮鳥が、説教の準備のため書いたメモであり、日本におけるキリスト教思想の解明に寄与する。同時に、宗教的記述のみならず、同時代の幅広い問題に対する思考の記録として、日本近代詩研究のみならず、思想史、文化史研究にも寄与するものである。さらに、山村暮鳥の詩や小説について、新たな視点からの解明を行うことで、日本近代詩研究に寄与するとともに、他の詩人や小説家を分析するための新たな視点を提示することができた。

研究成果の概要(英文)：Reprint work has been completed for the "Notes for preaching" except for a small part. The entire structure of the "Notes for preaching" has been revealed. The papers used for the "Morning sermon", their types and usage, and the method of writing were clarified. Focusing on the punctuation method of poetry by Yamamura Bocho, its consciousness of expression was clarified. The method of expressing novels was clarified. As a result, The whole picture of the "Notes for preaching" has been clarified, the poetry and novels of Yamamura Bocho were clarified from a new perspective.

研究分野：日本近代詩

キーワード：日本近代詩 山村暮鳥 説教メモ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

山村暮鳥(1884-1924)は明治末から大正末にかけて活躍した詩人である。従来の研究は、和田義昭による伝記研究のほかは大半が詩集『聖三稜玻璃』(1915)研究に集中し、大岡信『蕩児の家系 日本近代詩の歩み』(思潮社、1969)や瀬尾育生『戦争詩論 1910-1945』(平凡社、2006)などをはじめ、言語実験としての前衛性を評価するものがほとんどである。

一方、山村暮鳥は、秋田県、宮城県、福島県、茨城県の各地で布教活動を行った日本聖公会の伝道師であり、その説教の準備として書かれた膨大な量の「説教メモ」が残されているが、その検討はほとんど行われていなかった。研究代表者である竹本寛秋は、文科省科研費の助成を受けて、「地方における文芸コミュニティの形成と変容に関する研究—暮鳥会寄託資料を軸として」(2014年度-2016年度基盤研究(C))に従事し、山村暮鳥に関する資料の研究を遂行し、その過程で、山村暮鳥の残した「説教メモ」の重要性を認識するに至った。

「説教メモ」は、日本聖公会の伝道師であった山村暮鳥が、説教の準備のため書いたメモであるが、宗教的記述のみならず同時代の幅広い問題に対する思考の記録としての重要性を持つ。そのため、この「説教メモ」の翻刻・注解を行うことが、日本近代詩研究のみならず、思想史、文化史研究にも寄与することが予想された。

2. 研究の目的

本研究は山村暮鳥の「説教メモ」の翻刻および詳細な検討を通し、明治大正期の文学・哲学・美術・社会問題・宗教の交錯の様相を明らかにすることで、明治大正期の詩の言語形成の底流の一つを探るものである。「説教メモ」の翻刻・注解を行い、山村暮鳥の詩的言語の形成、他の詩人の詩的言語との交錯の様相を明らかにすることが本研究の目的である。

「説教メモ」は、総計で900枚を超える(暮鳥会に寄託された資料に830枚程度、土屋文明記念文学館に80枚程度)メモであり、明治四十年代から大正中期までに書かれたものと推定される。メモは、山村暮鳥が説教をする際の準備、あるいは壇上に置くおぼえとして使用されたとみられるが、キリスト教に関わる内容だけでなく、文学者、哲学者、芸術家の話題が記述されているほか、新聞の切り抜きが貼り付けられ、当時話題になった社会問題に対する見解が記されている。その意味で、「説教メモ」は、明治・大正の文学・哲学・美術・社会問題・教育・宗教など多岐にわたるトピックに対する考察を記した貴重な記録となっている。また、異端とすら言われた山村暮鳥のキリスト教観、キリスト教語彙が、どのように詩的言語として変換されたかを考察できる重要な素材である。本研究では、「説教メモ」の翻刻・注解を行い、『山村暮鳥全集』の成果を補うことを目指すとともに、山村暮鳥の詩的言語の形成過程を明らかにすることが目指された。

3. 研究の方法

本研究では、山村暮鳥の「説教メモ」すべての翻刻を行う。メモの文化的背景を明らかにするために、メモの記述に関連する明治大正期の思想・文化・芸術・哲学・社会問題・教育・宗教等の背景情報について調査を行う。これらを併せ、「説教メモ」の注解作業を行う。同時に、「説教メモ」の語彙や表現を分析し、山村暮鳥の詩的言語との関係を考察する。本研究を遂行するにあたっては、暮鳥会会長であり茨城キリスト教大学名誉教授の堀江信男氏、『山村暮鳥 聖職者詩人』(沖積舎、2006)の著書があり、日本聖公会に所属する中村不二夫氏、山村暮鳥暮鳥の顕彰団体である暮鳥会の幹事である加倉井東氏にも協力を得た。

4. 研究成果

「説教メモ」について、ごく一部の資料を除き、翻刻作業が完了した。この点が、本研究の一番の成果と言える。翻刻の全体は現時点で公開できていないため、今後、この成果を刊行することが目指されることになる。

また、「説教メモ」の使用用紙を検討し、その種類と使い方、書記の方法を明らかにして、「説教メモ」の構成の全体像が明らかになった。その成果は「山村暮鳥「説教メモ」使用用紙の検討」(『雲』第22号、2017.9、pp.68-78)として発表している。

また、山村暮鳥の詩について、句読法に着目して、表現意識を明らかにする作業も行われた。その成果は、「山村暮鳥『聖三稜玻璃』と句読点の消失」(『雲』第23号、2018.9、pp.2-11)として発表している。その関心を薄田泣菫の分析へと範囲を広げることで、「薄田泣菫『白羊宮』における句読点の戦略」(『西日本国語国文学』第5号、2018.10、pp.1-15)という成果も得られた。さらに、小説の方法意識の解明を行い、その成果は「山村暮鳥の小説における方法意識 『春』を手がかりとして」(『雲』第24号、2019.9、pp.4-13)として発表している。

また、山村暮鳥の詩「荘厳なる苦惱者の頌栄」について、「説教メモ」の解読による知見も含めた論考を、2020年9月に刊行予定の『詩と思想』において掲載することを予定している。更に2020年9月刊行予定の『雲』に、より詳細な分析の成果を掲載することとしている。これらをはじめとして、本研究によって得られた知見を、更に発展させつつ、成果につなげていくことが今後も目指される。

以上の成果により、「説教メモ」の全体像の解明、および、山村暮鳥をはじめとする詩、小説作品について、新たな視点からの解明が行われたと考えている。

また、「山村暮鳥と魁新報」(『秋田魁新報』2019.4.15)を発表し、成果を広く一般市民に還元することもできた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 竹本寛秋	4. 巻 23
2. 論文標題 山村暮鳥『聖三稜玻璃』と句読点の消失	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 雲	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹本寛秋	4. 巻 5
2. 論文標題 薄田泣菫『白羊宮』における句読点の戦略	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西日本国語国文学	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹本寛秋	4. 巻 22
2. 論文標題 山村暮鳥「説教メモ」使用用紙の検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 雲	6. 最初と最後の頁 68-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹本寛秋	4. 巻 24
2. 論文標題 山村暮鳥の小説における方法意識 『春』を手がかりとして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 雲	6. 最初と最後の頁 4-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

「山村暮鳥と魁新報」(『秋田魁新報』2019年4月15日,文化欄)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----